



関東甲信越ブロック



発行人
関東甲信越ブロック支部長
高柳 亮

ニュースレター No.16 (2016.12)

1. 地方会開催報告

【関東甲信越ブロック地方会 in ぐんま 開催】

大会長 高玉 真光 (群馬県支部副支部長)
実行委員長 高柳 亮 (関東甲信越ブロック支部長)

去る2016年11月27日(日)、前橋市の群馬県社会福祉総合センターにおいて、第5回日本プライマリ・ケア学会関東甲信越ブロック地方会 in ぐんまが開催されました。群馬では、この日のために約1年前より15回にわたる実行委員会を開催してきました。当日は、曇天の寒空にも関わらず、あらかじめ事前参加登録をいただきました320名余の方々に加え、当日直接お越しいただいた方も100名近くに及び、合計420名ものみなさんにご参加をいただきました。会員のみならず、非会員の方にも100名以上ご参加いただき、また医師・歯科医師・薬剤師以外の専門職や学生のみなさんの参加も100名を超えました。若手からベテランまで、そして医師だけでなく、様々な職種の方が楽しめる地方会を目指してきた実行委員会としては、大変嬉しい結果となりました。また同日開催されました議員総会にも50名以上の代議員の方々にご出席いただきました。ご参加いただきましたみなさん、大変ありがとうございました。お忙しい中、講演講師、発表者、座長、助言者、タスクフォースなどとして各企画に御協力いただきました先生方には、本当に感謝いたしております。また、陰に陽に運営を支えてくださいました、群馬県医師会、前橋市医師会、前橋市、老年病研究所附属病院、群馬大学、前橋赤十字病院、前橋協立病院、株式会社Klar、株式会社アイ・エス・エスの皆さん、また、ご協力いただきました各企業の皆さん、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

<企画内容>

■ 講演

- 『プライマリ・ケアの愉しみと生涯学習』 藤沼康樹先生 (家庭医療学開発センター センター長)
『在宅で行うリハ・栄養』 若林秀隆先生 (横浜市立大学附属 市民総合医療センター)
『紙とペンでできる認知症診療術～笑顔の在宅生活を支える実践医療～』 山口晴保先生 (群馬大学名誉教授 / 認知症介護研究・研修東京センター長)
『プライマリ・ケアで求められる在宅緩和ケア』 浜野淳先生 (筑波大学医学医療系)
『神経難病と在宅看護』 牛久保美津子先生 (群馬大学大学院保健学研究科看護学講座)
『プライマリ・ケア医のための骨粗鬆症治療』 大澤稔先生 (東北大学産婦人科・漢方内科)

■ ワークショップ

- 『共に考えるポリファーマシー ～処方を通じた対話の向こうに～』
矢吹拓先生 (栃木医療センター) 山本祐先生 (自治医科大学総合診療科)
青島周一先生 (中野病院) 八田重雄先生 (多摩ファミリークリニック)
『介護福祉の超基本! 「主治医意見書」・「退院カンファレンス」』
堀越健先生、大橋博樹先生、高木暢先生 (多摩ファミリークリニック)
『地域での褥瘡対策についてみんなで考えよう』
菅野圭一先生 (渋川国民健康保険あかぎ診療所)
『実践! アドバンス・ケア・プランニング』
平洋先生 (群馬家庭医療学センター)

『Enjoy♪在宅医療 初めての在宅医療入門編～在宅医療経営のコツ～』

遠井敬大先生（埼玉医科大学総合医療センター）
医療経営コミュニティ TSUKINO WA KAI

『認知症の人の在宅生活支援 ～認知症初期集中支援チーム～』

山口智晴先生（群馬医療福祉大学リハビリテーション学部）

■ シンポジウム

『多職種協働のために必要なコンピテンシーとは –若手医師・若手スタッフへのメッセージ–』

堀田聡子先生（国際医療福祉大学大学院） 古屋聡先生（山梨市立牧丘病院）
山田圭子先生（前橋市地域包括支援センター西部）
三浦太郎先生（富山大学医学部 富山プライマリ・ケア講座）

■ 若手企画

『ポートフォリオのトリセツ ～作成から指導まで～』

藤沼康樹先生（家庭医療学開発センター センター長）、松村真司先生（松村医院）
大塚貢博先生（明戸大塚医院）、内山直樹（桜新町アーバンクリニック在宅医療部）
島直子（CFMD）、久保田希（KFCT）、原嶋渉（川崎市立井田病院）
濱井彩乃（安房地域医療センター、KFCT）、鋪野紀好（千葉大学総合診療科）
杉谷真季（桜新町アーバンクリニック）

■ ランチョンセミナー

『在宅医療に向けた栄養支援～地域における栄養サポートチーム構築を目指して～』

橋場弘武先生（老年病研究所附属病院薬剤部）

『地域といっしょに。あなたのために。』

田中志子先生（内田病院理事長）

『高齢者診療に役立つ漢方処方』

佐藤真人先生（群馬大学総合診療部）

2. 都県支部からの報告

【埼玉県支部活動報告】

『埼玉支部の近況報告 —29年度関東甲信越ブロック地方会を前に—』

埼玉県支部長 中根 晴幸

まず28年度の支部総会と学術集会の報告をいたします。例年通り大宮ソニックシティで、今年は曜日が変り11月18日（金）に昨年と同じ会場（906号会議室）で挙行了しました。今年は「埼玉県の認知症に対するアプローチ」をテーマとして、一般演題として3題、地域相談センターの活動を川口訪問看護ステーションの三塩先生に、認知症を伴う患者における訪問歯科診療についてを県歯科医師会の小宮山和正先生に、認知症者と家族に対する作業療法の役割についてを県立大学の石岡俊之先生に、それぞれ発表していただきました。教育講演として「認知症の最新情報として～レビー小体型認知症（LBD）を中心に～」を埼玉医大神経内科の高橋一司先生に講義いただきました。LBDに限られたテーマの様でありながら、認知症の様々な要素についての理解を刺激される素晴らしい講演でした。

会の最後に平成29年度第6回関東甲信越ブロック地方会の埼玉県開催の概要が地方会事務局長の石田岳史先生から説明されました。大会長を自治医科大学附属さいたま医療センター長の百村伸一先生が務め、大会テーマを「高価値なプライマリ・ケア（High-value Primary Care）を目指して」としています。開催日時は平成29年11月19日（日）9時より、交通の便がよい大宮ソニックシティに複数の会場を確保しました。すでに特別講演、教育講演、シンポジウム・ワークショップなど具体的な内容の検討にとりかかっています。詳細は次号でご案内します。

我々の支部総会の翌週末に、第5回関東甲信越ブロック群馬地方会が前橋で盛大に開催され、私のクリニックからも演題を出させていただき、代議員会にも出席しました。会議の席上で、上記の内容で地方会を企画している旨を報告しました。群馬の地方会も最後まで立派な会でしたので、その熱気を来年の埼玉地方会にも運んできていただきたい、とご挨拶しました。今後も皆で力を合わせて、地域のご期待に応えられる学会開催を目指したいと思います。どうぞよろしくご支援お願いいたします。

【茨城県支部活動報告】

茨城県支部長 今高 國夫

10月30日、いばらき医療福祉研究集会「フダン（普段・不断）の備えが今、生きる～災害時での多職種連携～」を17職能団体と共催して開催し221名の参加あり。演題とポスター発表38題、コモンディゼイズ研究会「循環器疾患と医科歯科連携」、講演「経口補水療法～」、メインのシンポジウムでは、県危機管理課、土浦市障害福祉課、きぬ医師会病院管理者、歯科医師会長、薬剤師会長、看護協会、病院リハビリ科、老健リハビリ室から、昨年の鬼怒川洪水の取り組みと連携や対策が発表された。いずれの企画も充実した多職種研修となった。当支部役員が実行委員・座長をつとめた。次年度も継続した取り組みが期待されている。

そのほか、支部の「PC連合学会単位認定講座」は今年度7回実施（予定含）。

- 3月3日 「総合診療医養成と地域医療の再構築」
- 5月3日 「鬼怒川洪水で何が起きたのか」
- 6月28日 「一歩進んだアルコール問題への対応方法」
- 7月12日 「介護保険制度の変遷と今後の介護予防」
- 10月18日 「遺伝カウンセリングの実際」
- 12月14日 「女性のライフステージによるヘルスマネジメント」
- 3月2日 「臓器移植」

会場の筑波大に毎回、熱心な参加者が集まってくる。

【長野県支部活動報告】

長野県支部長 古川 善行
松本協立病院 鈴木順先生

第3回中信ブロック研究会を、平成29年3月4日（土）に信州大学旭会館にて開催予定です。

在宅医療をキーワードに、演題を募集しています。（1月下旬締切）

抄録は2月中旬までに下記メールにお送りください。

【送付先】

塩尻協立病院 内科 古川安之
furukaway@chushin-miniren.gr.jp

関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。掲載希望の方は以下メールアドレスまでご連絡いただければと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp
